

【事業所名】 養護老人ホーム万寿園 ・ 軽費老人ホーム第三万寿園

I 事業の年間報告

事業の概要	自己評価	年間の取組と年間評価	取り組むべき課題
1 利用者への取組			
(1) 人権尊重の徹底	A	① ア 虐待防止・身体拘束廃止委員会開催 9月・3月実施 イ 虐待防止・身体拘束に関する研修 身体拘束:9月・12月実施 虐待防止:10月・3月実施 ウ 虐待の芽チェックリストの実施 4月・12月実施 ② 虐待の芽チェックリスト実施後、集計結果で改善された項目や注意が必要な項目を共有し、改善に向けて意識することを各自で掲げ、実践できたか振り返りを実施した。 ③ 多職種カンファレンスを個別に行い、支援内容や課題を共有したうえで計画書を作成し、支援内容が現状に基づくように退院後の見直し等も行ない、職員間でも一定の周知が図られた。	① 虐待の芽チェックリストの結果は総合的には改善されているが、注意が必要な項目を周知し、意識していく。 ② 支援計画書は職員の自発的な確認によって共有されているので、迅速かつ確実に共有する仕組みづくりが課題である。
(2) 苦情解決・相談体制の整備	A	① ア 苦情解決委員会開催 4月・7月・11月・12月実施(事故防止委員会と合同) イ 第三者委員の施設訪問 4月に懇談会を実施し、施設及び利用者状況、第三者評価利用者アンケート結果・事故苦情報告、意見交換を行い、利用者所持品の管理についてなどの質問があった。苦情解決第三者委員への報告を必要とする苦情はなかった。 ② 利用者間の生活上のマナーに対する苦情が多くあり、都度、声掛けや面談を実施した。	① 特定の利用者の対する苦情については、改善されずに繰り返されることが多く、家族の協力が得られない場合もあり、物理的な対応策を講じているが、解決に至らず苦慮している。
(3) 事故防止対策	A	① ア 事故防止委員会開催 4月・7月・11月・12月実施(苦情解決委員会と合同) イ 事故防止に関する研修 4月・6月実施 ウ 個人情報保護研修 5月実施(昨年度の課題とした研修) ② 理学療法士による歩行・動作・福祉用具評価や生活環境の確認や施設内リハビリ(週1回)を実施し、転倒予防に繋がった。	① 転倒事故や配薬事故が多い傾向にあり、関係部署で共有し、予防策を実践し、継続できているかの振り返りや評価・見直しを実施する。 ② 施設内リハビリに参加していない転倒が多い利用者への参加の促し方について検討する。
(4) サービスの質の確保	B	① 第三者評価受審 8月から1月に受審した。(評価結果は別紙) ② 例年の季節行事を実施、コロナ禍で中止していた喫茶を月1回から再開した。 ③ 2026年度からの開始に向けて、新しいクラブ「脳トレクラブ」を発足した。看護師から認知症予防への取組として提案があり、健康麻雀から始めた。 ④ 食事サービス委員会でフロア別で提供する新メニューを検討した。また、厨房内で炊いていた粥をフロアで炊いて提供する工程を委員会でもとめ、炊き立ての粥を提供している。	① 改善が望まれる点であるマニュアルの整備・見直しは改善したい意見として出ていたが取り組んでいなかった。 ② 喫茶メニューはマンネリ化しないようにアンケートの実施や利用者参加型喫茶など検討する。 ③ 健康麻雀の他にもクイズ・ゲームなど、参加しやすい内容を取り入れる。
2 職員への取組			
(1) 人材の確保・育成・定着	B	① 職員紹介制度の紹介対象者が改正されたことを周知した。しかしながら、紹介には至っていない。 ② 人材紹介会社からの紹介も減少している。新しい紹介会社には業務内容等を丁寧に説明した。ハローワークの求人者支援員に求人票の見直しを依頼したことで求職者の紹介数が増加した。	① 有期職員にも紹介制度を周知していく。 ② 引き続き、求人票や求人サイトのコメントの見直しをしていく。
(2) 人材の活用	B	① 在職中の有期職員から就業時間の希望変更があり、求人情報の調整等を実施した。 在職中の職員の負担軽減のため、派遣契約職員を雇用した。(夜勤専従・調理補助 各1名)	① 派遣契約職員については、人材補充ができるまでは更新していく必要がある。
(3) 職場環境づくり	A	① 「サンクスカード」の取組は2回実施し、実施後のアンケートで取組に関する意見をもらった。 ストレスチェックの分析結果で、取組のきっかけとなった項目(上司や同僚の支援)が改善できた。	① アンケートで「職場の雰囲気が良くなった」「日頃の感謝を伝えて良かった」と好印象の回答もあったが、反する意見もあった。
(4) 人事給与トータルシステムの構築	B	① バージョンアップ後のユニバーサル勤次郎(勤怠管理システム)の講習会に3名が参加し、準備を進めている。	① 非効率な点の改善ができるように、法人全体と協力していく。

3 地域社会への取組			
(1)地域貢献	B	<ul style="list-style-type: none"> ① 夏休み期間の「お昼ご飯お届け事業」への協力を行い、8/12～25 のうちの 9 日間に延べ 25 食を提供した。 ② 富士見町あいさつ運動へ施設利用者への参加に向けて、具体的な取組はできなかった。 ③ 近隣自治体に会議室や 5 階ホールの貸し出しの他、市内高齢者施設からの要望に応じて餅つきの臼・杵を貸し出した。東村山市富士見町の「ふふふ資源帳」に貸出協力を市民向けに PR している。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 今後も「安心・安全・美味しいお弁当」の提供に協力していく。 ② 富士見町福祉施設連絡会であいさつ運動の実施状況の把握に努め、来年度の参加を実現したい。 ③ 要望を待つ状態から、地域貢献を発信、工夫、生み出すことを目標にして、東村山ブロック全体で、新たな活動を検討していく。
(2)災害対応	B	<ul style="list-style-type: none"> ① 3/29 に富士見会と第二万寿園との合同防災訓練を実施。消火器による初期消火訓練、1 号消火栓の放水訓練を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 南台自治会との合同防災訓練は実施できなかったが、今年度実施できるように準備していく。
4 経営基盤強化への取組			
(1)収入増への取組	B	<ul style="list-style-type: none"> ① 2024 年度末に収入シミュレーションを行い、2025 年度の見込を算出した。実際には算出見込よりも措置者数は多く推移した。 ② 入所相談者の施設見学や入所時の送迎を施設車両で対応する等、事情に応じて協力した。 ③ 養護契約の利用料を 2026 年 4 月 1 日より、一般入所日額 190 円、生保入所日額 130 円の引上げを行った。3 月上旬に改定のお知らせをするとともに、重要事項説明書の取り交わしを行った。 ④ 昨年 6 月に 3,400 万円分の国債を購入。昨今の金利状況を考え、1 年契約とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 入所相談者の個別の要望に応えられないケースもあり、入所調整の課題となることがあった。改善できる可能性を模索していく。 ② 国債については、来年度以降も社会情勢を見ながら、資金運用を判断する。
(2)コスト削減への取組	B	<ul style="list-style-type: none"> ① 電気料金は 2025 年 4 月から契約プランの変更に伴い、昨年と比較し使用量は 8,636kWh 増えたが、料金は約 150 万円下がった。 ② 数種類のごみ袋を使用していたが、種類を減らしてまとめ買いをし、購入業者の見直しを行ったことで単価を抑えることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ① コスト削減の情報や業者からの売り込みや提案等は、実態を良く調査しながら、見直しをしていく。 ② 今後も消耗品の見直しの際には、事前に関連職員に相談し、業務に支障が起きないようにする。
(3)施設設備等物的基盤整備	B	<ul style="list-style-type: none"> ① 2025 年 4 月から定員 120 名に減員したことによる一部(26 室)個室化により、同室者と上手に生活を送ることが困難な方への対応が可能となった。契約入所の方へは個室の選択肢があると説明ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 個別に必要なケアを提供するための個室利用が優先になることを、理解が得られるように利用者へ引き続き説明していく。
(4)組織・システム	B	<ul style="list-style-type: none"> ① 7 月より、起案書の作成は紙から NI コラボへ完全移行できた。作成にあたり、戸惑いなどもあったが、現在は作成にも慣れてきて、起案書の作成から回覧などがスピーディーになった。メールの使用も活発になってきており、連絡のやり取りは円滑に進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 活用を進めるうえで申請経路の設定など複雑な面があるなど、利便性を重視できないところもあり、都度検討をしながら、さらに効率的な運用を進めていく。
(5)災害・感染症対応	A	<ul style="list-style-type: none"> ① BCP の見直しを行い、ハンドブック(抜粋版)を作成した。ハンドブックは実際に使用する場面を想定し、写真を多く掲載し視覚的に分かりやすくした。1 項目につき 1 枚(両面で 2 頁)にまとめ、関連場所にマニュアルとして掲示できるようにした。 ② 非常食 9 食のうち、非加熱で食せるものを 3 食準備した。各階ごとに利用者数に合わせて配置した。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 作成して終わりにせず、訓練等で実際に使用していくことで、見えてくる改善点を、今後も見直していく。 ② 備えが必要な物品を洗い出し、選定・購入を進める。
(6)危機管理	B	<ul style="list-style-type: none"> ① IP 無線機の訓練時にマニュアルを見ても、取り扱いに手間取った。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 期間が経過すると取り扱い方法を忘れてしまうため、定期的実施していく。
(7)情報セキュリティの強化	B	<ul style="list-style-type: none"> ① 個人情報保護(セキュリティ)研修を 5 月に実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 職員間の情報交換など、日常的な場面でも会話内容や声の音量などにも注意する。
5 持続可能な社会の実現に向けての取組			
(1)SDGs の取組 目標 N o 1 2 つくる責任 つかう責任	B	<ul style="list-style-type: none"> ① 職員会議や利用者全体懇談会で SDGs の基本的なことを話題にし、身近なことを例に挙げて共有した。残飯の量を減らすため、炊飯量(コメの量)の見直しをした。朝食・夕食は一週間でそれぞれ 3.5 キログラム、昼食は 5 キログラムの米を減らせた。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 水道や電気などの節約については意識しているが、ごみを減らす等の意識付けができなかった。ポスター等の視覚効果を利用する。